

2号炉 長期施設管理方針

No	施設管理の項目	実施時期
1	<p>事故時雰囲気内で機能要求される原子炉格納容器内の難燃PNケーブルの絶縁特性低下については、長期健全性評価結果から得られた評価期間に至る前までに同仕様の難燃PNケーブルに取替を実施する。</p>	中長期 ^{※1}
2	<p>原子炉圧力容器等*の疲労割れについては、実績過渡回数の確認を継続的に実施し、運転開始後60年時点の推定過渡回数を上回らないことを確認する。 *：疲れ累積係数による低サイクル疲労の評価を実施した全ての機器</p>	中長期 ^{※2}
3	<p>原子炉圧力容器円筒胴（炉心領域部）の中性子照射脆化については、今後の原子炉の運転サイクル・照射量を勘案して第3回監視試験の実施計画を策定する。</p>	中長期 ^{※2}
4	<p>肉厚測定による実測データに基づき耐震安全性評価を実施した炭素鋼配管*¹の腐食（流れ加速型腐食）については、今後の肉厚測定の結果、運転開始後40年時点までに耐震管理厚さ*²を下回るおそれがある場合は、配管取替等*³を実施する。また、最新の実測データを用いた60年目の想定厚さにて耐震安全性評価を再度実施する。 *1：給水系、復水系、原子炉ベントドレン系、原子炉隔離時冷却系、残留熱除去系、タービングランド蒸気系、補助蒸気系、主蒸気系、タービンバイパス系 *2：耐震管理厚さ=min（40年目の想定厚さ、公称板厚の80%厚さ） *3：配管取替または内面肉盛溶接による補修</p>	中長期 ^{※2}

※1：平成31年2月10日から運転開始後40年時点まで

※2：策定後から運転開始後40年時点まで